



tsu

na

gu

地域医療連携のための
ネットワークづくりマガジン

+ believe



権 雅憲

地域医療センター長

「各附属病院の地域医療連携強化を推進します」



鋤方安行

関西医科大学附属枚方病院 高度救命救急センター長

「地域救急医療の最後の砦として」



室田卓之

関西医科大学附属滝井病院 副病院長／腎泌尿器外科部長／地域医療連携室長

「最新で最高の医療が提供できる病院を目指して」



駒井宏好

関西医科大学附属滝井病院 末梢血管外科教授／血管内治療センター長

「末梢血管外科について」



高橋延行

関西医科大学香里病院 地域医療連携部長

「地域全体で地域医療を支えるために」



浦上昌也

天満橋総合クリニック院長

「地域医療の発展に全力を尽くす所存」

#01
march 2013

地域医療ネットワークをより強固に、 *regional medical liaison* よりスムーズにして行くために

この冊子は地域医療を支えるみなさまとの相互理解を深め、より強固によりスムーズに医療連携を支えて行くため、関西医大の附属4施設(附属枚方病院、附属滝井病院、香里病院、天満橋総合クリニック)の今をお知らせするとともに、みなさまのご意見を広く拝聴して行きたいと考えております。

本誌のタイトル「つなぐ+believe」には、医療をつなぐ、命をつなぐ、願いをつなぐ、そのためには、医療機関同士の信じあえる心が支えとなるという思いを込めさせていただきました。

今後もみなさまから信頼いただける医療機関になれるよう、関西医大附属4施設一丸となって努力してまいりますので何卒よろしくお願いいたします。

各附属病院の地域医療連携強化を推進します

地域医療センター長 権 雅憲

今後の日本の医療において、各医療機関が本来の機能を最大限に発揮するためには、急性期、回復期、在宅、その他の専門分野の診療特化と、それらが適切に連携できる環境を整備することが重要であると言えます。かかる状況下で、国の施策としても、医療機関が密に連携する体制の強化が推進されています。そこで、本学では24年4月1日に「関西医科大学地域医療センター」（以下、「地域医療センター」という）が設置されました。

地域医療センターの役割は、法人が地域医療連携業務を推進するための企画、立案及び統合調整です。附属枚方病院、附属滝井病院、香里病院、天満橋総合クリニック（以下、「各附属病院」という）の地域医療連携部・室は、センターが企画、立案した事項を具体化し、実施することを目的としています。各附属病院は、互いに協力して地域連携を推進することで、地域住民の方々が症状に応じた適正な医療機関を受診していただけるよう鋭意努力するとともに、安心して安全な医療を提供する使命を果たします。



権雅憲センター長(後列左より三人目)

地域救急医療の最後の砦として

関西医科大学附属枚方病院 高度救命救急センター長

くわがた やすゆき
鍛方 安行



このたび、関西医科大学附属枚方病院 高度救命救急センター長を拝命いたしました鍛方安行（くわがた やすゆき）と申します。平成25年2月1日に着任いたしました。当院の高度救命救急センターが、地域救急医療の最後の砦として十分に機能するとともに、関西医科大学附属枚方病院全体が地域の皆さまにとって安全・安心な急性期医療機関として機能してゆけるよう、精一杯貢献してゆきたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

<自己紹介>

私は、1983年に筑波大学医学専門学群を卒業したのち、大阪大学医学部附属病院特殊救急部（現高度救命救急センター）の一員となりました。一般外科の技術修練、大阪大学での臨床研究への従事、市中救命救急センター勤務、米国留学をへて、1995年に大阪大学に教員採用となり、以後は一貫して、救急医学の教育・臨床・研究に取り組んで参りました。この間、自らの所属する診療施設が、重症外傷など重篤な外因症例を中心として自己完結的に診療する特殊救急部から、心筋梗塞・脳卒中をはじめとする多数の重篤内因症例もふくめて幅広く診療する中央診療部門（救命救急センター）へと変貌してゆく過程を実体験し、社会に求められる高度救急医療がいかなるものであるかを学びました。高度救命救急センターでは、小児から高齢者まであらゆる年代の重症救急例を24時間受入れて、高度医療を提供しなければなりません。そのためには、救命救急医と院内各診療科の専門医が、個々の重症救急例の病状・病態に応じて、臨機応変に診療チームを形成することが重要です。前任地では医局長／副センター長として管理運営に携わり、院内各診療科との機動的な協力関係を得ながら、この課題を実現することができました。このような経験を活かし、関西医科大学の叡智・技術を結集して、傷病の別を問わない優れた急性期医療を地域住民の皆さまに提供してゆきたいと考えております。

<基本方針>

関西医科大学附属枚方病院では、2006年の開院以来、救

命救急センターを運営して参りましたが、2012年4月より高度救命救急センター指定を受け、高次救急診療機能の一層の充実を図っています。現在、北河内二次医療圏にある三次救急医療施設は、関西医科大学附属枚方病院の高度救命救急センターと、同附属滝井病院の救命救急センターの二つのみであり、この両センターで三次救急を必要とする全ての症例を収容する必要があります。なかでも、重症多発外傷、心肺危機、重症中毒、広範囲熱傷などとりわけ困難な症例は、可能なかぎり附属枚方病院高度救命救急センターへ収容することが望ましいと考えます。これを実現するためには、病院前からの取り組みが必要です。枚方寝屋川消防本部、守口門真消防本部をはじめとする管内の各消防本部と密接な連携、意思疎通を図り、的確かつ円滑な搬送体制を運用できるよう調整を図ります。また、枚方寝屋川消防本部のご協力のもとステーション形式で運用している附属枚方病院のドクターカーを積極的に活用し、病院前診療を高度化してゆきたいと考えています。

高度救命救急センターの診療能力強化を目的として、2013年4月より新たに3名の救急専従医を採用します（うち救急医学会指導医1名、救急科専門医1名）。特に重症外傷を含む外科系救急に高い診療能力を備えたスタッフばかりであり、彼らが従来スタッフに加わることで、一層充実した救命救急医療を提供できると考えます。また、大阪大学医学部附属病院高度救命救急センターとの間にテレビデオ会議システムを結び、双方向通信による遠隔カンファレンスを実現します。とくに難度の高い症例、稀少な重症救急症例について双方の頭脳を結集し、的確な診療方針を決定することができます。このような人員・設備の充実により、重症救急症例の最後の砦としての機能を強化いたします。

関西医科大学附属枚方病院は、災害拠点病院として指定されています。災害発生時の初期救命診療に際して、傷病者の受け入れや医療救護班の派遣などを行う役割を負います。とくに附属枚方病院の立地・建築は、大阪に予想され

る直下型地震や南海・東南海地震によく耐える条件を整えており、近畿一円の大規模災害発生時には重要な役割を果たす必要があります。いつ災害が起こっても平時診療から災害時モードへ速やかに切り替え、多数傷病者に的確に対応できるよう、高度救命救急センターを中心とし、附属枚方病院全体の災害時対応能力を強化してゆきます。

高度な医療の充実には、医療安全の確保が欠かせません。一般に病院内でインシデントの発生率が高い部署には、手術室、集中治療室、産科などが知られていますが、救急外来もその代表です。患者搬送、情報伝達、治療介入などさまざまなプロセスで生じうるインシデントを解析し、救命救急医療の安全性を高めます。また、病室での急変、検査中のショックなど、院内で不意に生じる生命危機に対して、rapid response systemを積極的に導入してゆく方針です。これは、心肺危機が発生した現場へ、救命救急医など蘇生術に習熟したスタッフが急行し、迅速な救命救急診療を提供するもので、能動的な医療安全の向上につながります。

最後に、私たちの施設が、一層魅力のある救急専門医育成機関として機能できるよう、幅広い育成プログラムを提

供してゆく方針です。関西医科大学救急医学講座には、多くの救急来院症例を効率よく診療するER型救急移設など、特徴ある研修協力関連施設があります。一方、私の出身母体である大阪大学救急医学講座は、大阪府下の複数の救命救急センターを含め、全国に数多くの救命救急・外科系急性診療を専門にした関連施設を有しています。これらの人的・施設のネットワークを駆使し、ER型救急診療から集中治療まで、また外科系救急診療能力の専門研修から、多彩な内科系サブスペシャリティ専門研修まで、各種の専門技能獲得が可能なプログラムを構築します。同時に、卒後10年を目処に本格的に救急科専門医／指導医を目指す若手にも、短期間の救急研修を希望される方にも適合するよう、多彩かつ魅力的な研修・育成ストラテジーを考案し、多くの志ある若者に集って頂ければと考えています。

以上、簡単ではございますが、関西医科大学附属枚方病院 高度救命救急センター／救急医学講座の新しい船出についてご紹介申し上げました。これからも、皆さまのご指導・ご鞭撻をいただけますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。



枚方病院の機能を更に拡大・充実します

▶ 高度救命救急センターが更に充実いたしました

救急医学講座教授 兼 高度救命救急センター長に、平成25年2月1日付で、大阪大学大学院医学系研究科准教授 鎌方安行 氏が就任いたしました。

今後は、北河内の救急医療の更なる充実のために一層の努力をいたしますのでご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

▶ 外科の専門領域を充実させ、地域の先生方のニーズにお応えします

平成25年4月1日から、地域の先生方から要望が多かった外科の専門領域に新たに2名の診療教授をお迎えし、ニーズにお応えいたします。

- 外科学講座末梢血管治療科診療教授に、大阪府立成人病センター 心臓血管外科 部長 渋谷 卓 氏が就任されます。
- 外科学講座乳腺外科診療教授に、京都大学大学院医学研究科 外科学講座乳腺外科 准教授 杉江知治 氏が就任されます。

▶ 神経内科の拠点が枚方病院に移ります

平成25年4月1日から、大学の移転に伴い、神経内科の拠点が滝井病院から枚方病院へ移ります。神経内科の中心的役割は、枚方病院となりますが、一部の診療機能は滝井病院にも残ります。

▶ 中央採血室を拡張します

中央採血室は、患者さんが多い時間帯には、大変狭隘となっております。採血待ち時間短縮と快適性の向上を目指して、GW(ゴールデンウィーク)に拡張工事を実施いたします。

▶ がん治療・緩和センターを開設します

平成25年秋を目標に、従来から稼働していた化学療法センターを大幅に拡充し、がん治療・緩和センターを開設いたします。当センターは、がん診療におけるチーム医療を横断的且つ一貫性を持って行う拠点として、先駆的な発想でがん診療に臨みます。

▶ 歯科口腔外科を開設します

周術期患者の口腔ケアとがん診療との連携を図ることを目的として、平成25年秋に、歯科・口腔外科を開設します。



最新で最高の医療が提供できる病院を目指して

関西医科大学附属滝井病院
副院長・腎泌尿器外科部長
地域医療連携室長

室田 卓之



日頃から地域医療連携についての格別なご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2012年4月より高田秀穂前室長に代わり、腎泌尿器外科の室田が地域医療連携室長を務めさせていただき、不慣れな点があり、ご迷惑をおかけしつつ1年が経過し、少しは地域の先生方のお役に立つよう努力してまいりました。

このたび、関西医科大学附属3病院の地域医療連携室間の連携を強化しセンター化を図る事となり、今後さらに患者の紹介や逆紹介を推進して参りたいと考えています。病診連携・病病連携が一層の協力が可能となります。

また、退院支援、地域の保健・福祉・介護機関などとの連携をより密にして、患者にとってより良い医療を目指したいと思います。医療機関の連携を深める事によって、医療の質が維持され、継続性が保証されていることが患者の

安心感となり、患者にとっては地域の医療提供体制に対する信頼感を得る事となります。このためには、近隣の診療所や病院の多くの先生方にご支持・ご協力が必須となりますので、先生方のご支援をよろしくお願い致します。

皆様もご存知かと思いますが、附属滝井病院は、2014年に本館の建て替え工事が開始され、2016年春に新本館（300床）が完成し、計500床の附属滝井病院がリニューアルオープン致します。それに先立ちソフト面での充実を図り、平成25年度から、「PETセンター」・「透析センター」、乳腺外科の新設を予定し、並びに「心臓血管病センター（心臓外科と血管外科）」を再開します。診療科では既に末梢血管外科を2月より再開しております。最新で最高の医療が提供できる病院を目指していきます。附属滝井病院一同、よりよい地域医療連携をつくり近隣の先生、患者さんのお役に立つよう努力致します。なお一層のご指導・ご協力をお願い申し上げます。

新附属滝井病院の完成予想図



❖ 心臓血管病センター

平成25年4月1日から、(財)聖路加国際病院 心血管センター長 兼 心臓血管外科特別顧問の 川副 浩平氏が特命教授並びに心臓血管病センターセンター長に就任されます。

❖ PETセンター

PETセンターでは、がんの早期発見、がんのひろがりや転移の診断を目的として、PET/CT装置を本館地階に導入します。

なお、センター長は、放射線科の宇都宮 啓太准教授が就任します。

❖ 心臓外科

平成25年6月1日から、名古屋第二赤十字病院 心臓血管外科副部長の高味 良行氏が心臓外科診療部長・教授に就任されます。

❖ 透析センター

透析センターでは、維持透析30床・急性期透析8床・腹膜透析3床を南館7階に設置して、透析治療を充実させて参ります。

なお、センター長は、循環器腎内分分泌代謝内科の西川光重教授が就任します。

・ COLUMN ・

末梢血管外科の再開について

しばらく歩くと、決まったように足がだるくなり、痛くなり、立ち止まって休んでは歩く。こんな症状は、下肢の動脈硬化による下肢筋肉への血流不足がもたらす症状です。更に、下肢静脈瘤で悩む患者さんも多いと思います。

附属滝井病院では、本年2月より東京医大八王子医療センターから末梢血管外科の著明な医師、駒井宏好教授を附属滝井病院に招聘しました。日常臨床でお困りの患者さんがおられましたら、非常に気さくな先生ですので、電話・メール等でお問い合わせいただければと思います。

関西医科大学附属滝井病院 病院長 岩坂 壽二

末梢血管外科について

関西医科大学附属滝井病院

末梢血管外科教授・血管内治療センター長 駒井 宏好



末 梢血管疾患の現状と私の診療方針をご紹介します。まず、閉塞性動脈硬化症は高齢化社会となり、ますます増加しております。虚血性心疾患、脳血管疾患と同様、動脈硬化性疾患であるため潜在的な患者は高齢者の実に9%にのぼるとのデータもあります。しかし、せっかく家庭医や病院総合診療医が患者を見つけても心や脳とは違い、「いつ、どこに送れば適切な治療がなされるのか皆目見当がつかない」といったことが現状ではないでしょうか。我々はそのような患者の受け皿として、軽症例においては非侵襲的な治療方針を決定し、家庭医にお返しすること、また、重症例では私の得意とする足関節部に至るまでのバイパス術などで壊死が始まった足でも元の血流に戻し歩いて帰れることを目指します。大動脈瘤では破裂例は当然のことながら緊急手術を、非破裂例では手術の安全性を検討した上でステントグラフト内挿術を含む手術的治療を考えてまいります。

静脈瘤は通常のはレーザー治療で楽に治療しますが、世の中にまだ少なからずいらっしやる潰瘍を伴うような重症例を大学病院としては積極的に治療していかなければなりません。いずれの疾患においても患者さんの納得のいく、できるだけ低侵襲な治療で足を命を、そしてより良い生活の質を守るべく努力してまいります。

どんな患者さんも拒まず受け入れ、地域医療のために一翼を担う所存でやっておりますので、脈管疾患が疑われる患者は遠慮なしにご相談ください。

ご相談はメールやお電話でも承ります。

(komaihir@takii.kmu.ac.jp, 06-6992-1001, 末梢血管外科 駒井まで)

* 診療日時：毎週木曜日 9時～12時

* 紹介先：〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15

関西医科大学附属滝井病院

地域医療連携室 (06) 6993-9444

「地域全体で地域医療を支える」ために



関西医科大学香里病院 地域医療連携部長 **高橋 延行**

関 西医科大学香里病院開院以来、地域の先生方を始め、各医療機関、施設の皆様には常日頃より温かいご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

わが国では、急速な人口の高齢化や医療の高度化などにより、疾病構造は「急性期から末期までの長期に及ぶもの」となり、医療の役割は「個々の病気を治療すること」から「病気の管理、健康の維持、身体の機能回復を包括して行うこと」へと変化して来ました。また経済は低成長時代となり、質の高い医療を効率よく提供することが求められています。もはや病院完結型医療の時代は終焉し、地域において急性期から回復期、慢性期、介護、在宅医療まで、切れ目のない地域完結型医療を提供して行く必要があります。そのためには地域の医療機関が機能分化し連携を強化してその仕組みを構築することが重要ですが、決して人まかせにするのではなく、「地域全体で地域医療を支える」ために自らがまず行動するという姿勢が何よりも肝要であると考えています。疾病の治療と同様に重要なことは疾病の予防であり、これもまた地域医療連携の主要な役割の一つです。糖尿病、高血圧、慢性腎臓病などの生活習慣病か

ら発症する血管病を防ぎ、地域住民のQOLを維持するために、私たちは予防・啓蒙活動のネットワーク作りに取り組んでおります。

当院の地域医療連携部は医師1名、看護師1名、MSW 2名、事務職8名（常勤2名）の計12名で構成されており、病診連携、病床管理、医療相談の3つの業務を柱としております。互いの医療機関の情報を詳しく知り様々な連携に対応できること、病床を効率的に運営し常にニーズに対応できることが、近隣の先生方を始め各医療機関、施設との患者さまの紹介や逆紹介を行う上で大切な前提条件になるかと思えます。その上で患者さまを巡る様々な問題を解決し、患者中心の医療が円滑に遂行できることを目指しております。私たちの日頃の活動が地域における医療体制の充実に少しでも貢献できればと願っております。

関西医科大学香里病院が、「患者さまが受診しやすい病院」、「近隣の先生方が紹介しやすい病院」、そして「いづれからも満足していただける病院」であることを目指して今後も活動を進めていく所存です。皆さまより忌憚のないご意見・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



病診連携係

香里病院では、駅前の利便性を活かして、平日の夕方に診療を実施しております。
会社帰りやお子さんが学校から帰宅された後にも受診していただきやすい夕方の診療を行っております。

地域医療連携部では、夕方診療のご予約も承っておりますので、お気軽にご相談・ご連絡いただきますようお願いいたします。

- **一般診療** 【受付時間】 月曜日～金曜日と第1・3・5土曜日
- 初めて受診される方(初診)：午前8時30分～午前11時30分
 - 受診された事がある方(再診)：午前8時30分～午前11時30分

- **夕方診療** 【受付時間】 月曜日～金曜日 午後5時～午後7時(初診・再診)
【診療時間】 午後5時30分～午後7時30分

※地域医療機関からの紹介であれば、地域医療連携部にて午後8時まで受付しております。

夕方診療科	月	火	水	木	金
内科(2診)	○	○	○	○	○
小児科	○	○	○	○	○
乳腺外科	○			○	
整形外科		○			
腎泌尿器外科	○			○	
耳鼻科	○	○	○	○	○
婦人科		○			○

※25年4月9日より、整形外科も夕方診療を開始いたします。

医療相談係

香里病院の医療相談課は退院調整看護師1名と医療ソーシャルワーカー2名で入院、外来を問わず患者、家族の心理・社会的課題を支援しております。疾病により今までの生活が困難になったり、家族関係や社会活動の変化を余儀なくされることがあります。医療相談課では個々の問題を明確化し、解決できるようお手伝いします。

主治医をはじめ看護師、リハビリスタッフなど院内スタッフと連携しながら、また、必要に応じて在宅関係スタッフと連絡調整を行い、親身になって話を伺い不安を少しでも取り除けるよう、心がけております。また、患者、家族を交え関係職種と在宅医も参加頂き、癌末期患者の退院に向けてカンファレンスを行うこともあります。

冷静な頭と熱い心を持ち、フットワークの軽い医療相談課を目指したいと思います。ぜひ、地域の先生方にも医療相談課を便利な社会資源の一つとして活用して頂ければ幸いです。

病床管理

地域医療連携部にて、病床管理と退院調整を行っております。

病院内の病床管理は主に看護師が行っておりますが、地域の病院からの転院及び医療機関からの当日緊急入院の調整は看護師、MSWが共同で行っており、入院から退院の調整をしております。



地域医療の発展に全力を尽くす所存



天満橋総合クリニック院長 **浦上 昌也**

関 西医科大学により設立された財団医療法人OMMメディカルセンターは、設立後40数年を経て、昨年4月1日に関西医科大学と経営統合し、関西医科大学天満橋総合クリニックとして再スタートいたしました。OMMメディカルセンターの所長を務めておりました私が、引き続き院長の任に当たっております。経営統合後、まもなく1年を経過しますが、まずは無難なスタートが切れたと安堵いたしております。これも皆様の温かいご理解とご支援の賜物と深く感謝いたします。

OMMメディカルセンターは、設立当初より予防医療を重視し、時代に先駆けて人間ドックや健診を一般外来診療から分離独立させる体制を構築し、がんの早期発見や生活習慣病の予防に大きな実績をあげてきました。各科（内科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、婦人科、放射線科）の専門医をそろえ、多くの病気をかかえた患者さんを一つの施設

で診療できる良質な総合診療を行ってきました。また、多数の臨床研修医（地域保健・医療研修）や学生の臨床実習生を受け入れ、医学教育にも力をいれてきました。天満橋総合クリニックは、これらの素晴らしい伝統を継承しています。そのうえで、予防医療を軸として、大学附属病院はもとより、地域医療を担う医療機関の皆様とも広く連携し、病気の予防、早期発見から総合診療、さらに高度先進医療まで一貫して行う体制を構築したいと考えています。

天満橋総合クリニックは、入院施設もない小規模な医療機関です。しかしながら、時代が求めている予防医療および総合診療の分野において、他の大学附属病院とは異なる立場で重要な役割を果たし、地域の皆様のお役にたてるものと確信しています。微力ではありますが、皆様と協調して、地域医療の発展に全力を尽くす所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。



〳 新しくなったクリニックで予防医療を軸とした地域医療連携を促進します、〳

「2013年 関西医大が変わる」のキャッチフレーズのとおり、関西医科大学は皆様の温かいご支援を得て、大きく飛躍しようとしています。天満橋総合クリニックにとりましても、今年は大きな変革の年になります。現在進行中および予定されている事業について、簡単にご紹介させていただきます。

天満橋総合クリニックでは、施設整備を着実に進めています。

クリニックのスペースを広げ、OMMビル3階の半分を完全に占有することになりました。それを受けて、老朽化した施設の改修を行い、クリニックを機能的で美しく改装します。CTをはじめ、必要な検査機器を充実させます。

医師の増員も進めています。

関西医大滝井病院より消化器肝臓内科の是枝医師が着任いたしました。人間ドック健診を中心とした予防医療部門を強化するとともに、得意分野である肝臓病の専門外来も開始しました。放射線科では、関東労災病院の放射線科部長の任にあった浅井医師が着任し、従来の胃透視診断、胸部単純レントゲン診断に加え、胸部CT検査、脳MRI、MRA検査やマンモグラフィー検査などの診断においても力を発揮しています。今後、大学の各科より専門医の派遣をうけて、種々の専門外来をさらに充実させてゆきたいと考えています。

総合健診センターでは、滝井病院に開設が予定されているPETセンターなど、大学附属病院の高度先端医療を組み込んだ人間ドックを開始いたします。

従来人間ドックを天満橋総合クリニックで受けていただき、さらに脳ドックやPETによるがん検診を附属病院の最新の機器を用いて受けていただくことが可能になります。人間ドックの予約受付や結果説明は天満橋総合クリニックが一括して行います。

予防医療を軸として、地域医療連携を促進してゆきたいと考えています。

人間ドック健診で発見された糖尿病や高血圧などの患者様を地元の医療機関に積極的にご紹介いたします。また、人間ドック健診で見つかった異常の精密検査も地域の専門医と連携して行ってまいります。例えば、大腸がん検診で便潜血反応が陽性になった患者様の精密検査を、地元の専門医にもお願いし、手術などの処置が必要になれば、関西医科大学附属病院へ紹介していただく様なシステムを構築したいと考えています。地域の医療機関に通院している患者様にも、人間ドックを積極的にご利用していただきたいと考えています。人間ドックの検査結果を、患者様を通じて主治医にもお返しし、主治医の専門外の分野を含めた総合診療のお手伝いをさせて頂きたいと考えています。





関西医科大学 地域医療センター

附属枚方病院

☎072-804-0101(代) <http://www.kmu.ac.jp/hirakata/index.html>

〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1 地域医療連携部 病診連携課(地域医療センター事務局)
TEL 072-804-2742 FAX 072-804-2861

附属滝井病院

☎06-6992-1001(代) <http://www.kmu.ac.jp/takii/index.html>

〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15 地域医療連携室 病診連携課
TEL 06-6993-9444 FAX 06-6993-9488

香里病院

☎072-832-5321(代) <http://www.kmu.ac.jp/kori/index.html>

〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8-45 地域医療連携部 病診連携課
TEL 072-832-9977 FAX 072-832-9988

天満橋総合クリニック

☎06-6943-2260(代) <http://www.kmu.ac.jp/temmabashi/index.html>

〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目7-31 (OMMビル 3階)
TEL 06-6943-2260 FAX 06-6943-9827